

『人々が出会いを楽しむ空間』

～Natural な出会いを求めて～

1. 構想の背景

社会環境の近代化に伴い、現代の人々は子供からお年寄まで年齢を問わず屋内に閉じこもりがちであり、又、移動手段もドア to ドアで目的地以外の屋外で活動する機会が損なわれている。こういった環境の中では、隣近所との付き合いも疎遠がちとなり、生活基盤の糧となるべき居住地に愛着がもてないのではないだろうか。

本構想は年齢を問わず、そこで生活している人々すべてが楽しく人生を満喫できるような“まちづくり”を目指すものである。

2. まちづくりのテーマ

『人々が自然な出会いを楽しむ空間（ディズニフィケーション化）』

3. コンセプト

- 1) 身近な自然を活用できる街
 - 生活環境が自然につつまれている。
 - 人工的なものも時がたつにつれて自然に帰化する。
- 2) すべての年齢層が混在居住する街
 - 若年層から老年層まであらゆる時代のニーズに応じた住居施設や公益的施設を提供する。
- 3) 笑い声やにこやかな顔がいつも存在する町
 - 住人や近郊からの人々が集い安らげる空間の確保。

4. 整備方針及び整備内容

- 1) 自然への回帰をうながす
 - まちづくり整備においては、極力自然材料を使用し、手を入れる事により一時的に人工的ではあるが、経年変化に伴い自然に近づける様な整備を配慮する。
 - (例) 自然土舗装、自然石による擁壁・縁石、芝生は草花にて代用、樹木は地域にあったもので外来種等は植樹対象外とする。

2) 居住する年齢層を制限しない

○多種多様なバリエーションの宅地割・建物を計画し、お年寄や身体の不自由な人に優しいバリアフリーの道路構造や安全で安心して住めるような車止めや照明等を効果的に配置する。

(例) 独身・単身者用のワンルームマンションや二世帯住宅、又、敷地や建物の規模に変化をもたせ、適質・適価な住居を提供。
オープン外構やセットバック緑地の採用により空間を確保。

○個人病院や商店街、クアハウス・デイケアセンター等の福祉施設の誘致が望ましい。

3) レストゾーン（多目的空間）をまちの中心部に計画する。

○住民や近郊の人々が集い、活動可能な広い空間を確保する。

(例) 大きな公園施設用地（遊具等無し）や街区毎の“みち広場”

5. 実現に向けての課題

1) まちづくり候補地の選定としては、市街地中心部の広大な企業遊休地等が理想であるが、企業と行政の理解が得られるかどうかの問題である。

2) 現在の社会状況では適正な地価でも需要と供給のバランスが折り合わない可能性が高い。→定期借地権付住宅の普及促進が望まれる。

6. 最後に

幼少時代に野山を駆け巡り、川で泳いだり、魚をとって遊んだりという生活の一部に溶け込んでいた自然豊かな環境がほとんど見られなくなってしまったのが残念です。

現代の子供たちに古き良き時代を蘇らせて楽しく遊ばせてみたいという思いで構想しました。

— 以上 —

街並みイメージ (案)

